C120-E564-02

SE0X9LC11F/SE0X9LC12F フラットディスプレイ装置

取扱説明書



本製品をご使用になる前に、必ずお読みください

このたびは当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本書は、本製品をご使用になる方に、正しい操作および取り扱い方をご理解いただくために書かれています。

ご注意

- (1) 本書の内容を無断で転載、翻訳、複写、その他複製(データベース、磁気媒体、光ディスクなどへの入力等)することは禁じられています。
- (2) 本書に記載されている会社名および製品名は各社の商標、または登録商標です。
- (3) 本書の内容に関して、予告なしに変更する場合があります。
- (4) 本製品のデザイン、仕様に関して予告なしに変更する場合があります。

安全な使用のために

このマニュアルの取り扱いについて

このマニュアルには本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載 されています。本製品を使用する前に、このマニュアルを熟読してください。特 にこのマニュアルに記載されている「安全上の注意事項」をよく読み、理解した うえで本製品を使用してください。また、このマニュアルは大切に保管してくだ さい。

富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に 使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用する際は、マ ニュアルの説明に従ってください。

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、 大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性 を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう設計・製造 されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全 性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフ ティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

電波障害の防止について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づ くクラスA 情報技術装置です。 この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。 この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

商標一覧

本書で使用されている商標は、以下のとおりです。

- Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Solaris およびすべての Solaris に関 する商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受け て使用しています。
- Microsoft, Windows, MS, WindowsNT, Windows Server は、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商 標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標ま たは商標です。
- Turbolinux の名称およびロゴは、Turbolinux,Inc.の商標または登録商標です。
- Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における RedHat, Inc.の商標または登録商標です。
- その他の製品名等の固有名詞は、各社の登録商標または商標です。
- その他、会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本資料に掲載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示 (TM,R)を付記していません。

・本書を無断で複製・転載しないようにお願いします。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 2008

サポート&サービス

SupportDeskについて(有償)

システムの安定稼動に向け、保守・運用支援サービス「SupportDesk」のご契約 をお勧めします。ご契約により、ハードウェア障害時の当日訪問修理対応、定期 点検、障害予兆/異常情報のリモート通報、電話によるハードウェア/ソフト ウェアの問題解決支援、お客様専用ホームページでの運用支援情報提供などの サービスが利用できます。詳細は、SupportDesk 紹介ページ「製品サポート」 (http://segroup.fujitsu.com/fs/)を参照してください。

製品・サービスに関するお問い合わせ

製品の使用方法や技術的なお問い合わせ、ご相談については、製品を購入された際の販売会社、または弊社担当営業員・システムエンジニア(SE)にご連絡ください。SPARC Enterprise に関するお問い合わせ先がご不明なときやお困りのときには、「富士通コンタクトライン」にご相談ください。

富士通コンタクトライン

電話によるお問い合わせ

電話 : 0120-933-200 (通話料無料)

ご利用時間:9:00~17:30(土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く) ※ 富士通コンタクトラインでは、お問い合わせ内容の正確な把握、およびお 客様サービス向上のため、お客様との会話を記録・録音させていただいてお りますので、あらかじめご了承ください。

Web によるお問い合わせ

- Web によるお問い合わせも承っております。詳細については、富士通ホームページをご覧ください。
- http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/

保証について

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書に記載の内容に基づき無償修理いたします。詳細については、保証書をご覧ください。

修理ご依頼の前に

本装置に異常が発生した場合は、「第8章 トラブルシューティング」を参照 して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、担当営業 員または修理相談窓口に連絡してください。ご連絡の際は、本装置前面部右側に ある貼付ラベルに記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。

また、事前に「第8章 トラブルシューティング」をご覧いただき、必要事項 を確認してください。お客様が退避したシステム設定情報は、保守時に使用しま す。

修理相談窓口

- サポートサービス(SupportDesk など)未契約のお客様
- 製品保証期間中の保証書による修理
- SupportDesk パック Lite (カスタムメイドオプション) による修理
- 製品保証期間終了後の、サポートサービス(SupportDesk など)未契約の場合の修理
 - 当社指定のサービスエンジニアによるオンサイト修理を行います。
 サービスエンジニアは、連絡を受けた翌営業日以降に訪問します(ただし、故障原因が外付けキーボード、マウスなどの場合、原因部品の良品をお客様ご指定の場所に送付することも可能です)。
 - サービスの対象製品/作業時間に応じ、技術料/部品代/交通費などのサービス料金をご依頼の都度、申し受けます。

富士通ハード	ウェア修理相談センター
電話	: 0120-422-297(通話料無料) ※音声ガイダンスに従って、お進みください。
ご利用時間	:月曜日~金曜日 9:00~17:00 (土日祝日および年末年始を除 く)
Web 受付	: ハードウェア修理お申し込みページ https://eservice.fujitsu.com/webrepair/

改版記録表

(1/1)

版数	日付	変更箇所(変更種別)(注)	変更内容
01	2008-12-19		
02	2009-05-20	第1章(追加)	機種名 PRIMEQUEST を追加
		3.2(追加)	指のケガに注意の記述追加
		8.1(追加)	「表 8.1 トラブルシューティン
			グ」記述追加

注)変更箇所は最新版の項番を示している。ただし、アスタリスク(*) のついている項番は、旧版の項番を示す。

はじめに

本 取 扱 説 明 書 は 、 フ ラ ッ ト デ ィ ス プ レ イ 装 置 (型 名 : SE0X9LC11F/SE0X9LC12F)の導入時に、お客様に行っていただきたい確認事項 や日常の取り扱い方法について説明しています。

以下に、本書の構成と内容、警告表示の記号と意味、および製品の使用環境に ついて述べています。

- 本書の構成と内容
- 表記上の規則
- 製品の使用環境
- 重要な警告事項の一覧
- メンテナンスについて
- 接続可能な機器など
- お客様の作業範囲について
- 電源ケーブルについて
- 本製品の改造/再生について
- 使用済製品の引き取りとリサイクルについてのお願い

本書の構成と内容

本書は、以下に示す8章および付録から構成されています。

第1章 製品概要

本装置の各部の名称、機能、および取り扱い方法について説明しています。

第2章 ハードウェアセットアップ

本装置とサーバとの接続について説明しています。

第3章 製品の取り扱い方

本装置の取り扱い方および取り扱い上の注意事項について説明しています。

第4章 本装置の基本操作

本装置へのログインおよびポートの切替方法について説明しています。

第5章 OSD 操作

本装置の OSD (オンスクリーンディスプレイ)の操作について説明しています。

第6章 ホットキー詳細

本装置のホットキーの使用方法について説明しています。

第7章 Sun キーボードエミュレーション

Sun システムの特殊キー入力を行うキーボードエミュレーションについて説 明しています。

第8章 トラブルシューティング

トラブルが発生したときの対応方法について説明しています。

付録 A 工場出荷時設定一覧

本装置の工場出荷時の設定について説明しています。

表記上の規則

本書では、以下のような記号を特別な意味を持つものとして使用しています。

記号	意味	記述例
[]	キーボード上のキーを示しています。	[Enter] キー
	 複数のキーを同時に押す場合 [Ctrl] + [Alt] のように、プラス (+) で繋いで表記しています。 キーを連続して押す場合 (ホットキー操作など) [Ctrl], [Alt], [Shift] のよう に、コンマ(,))で繋いで表記しています。 	[Ctrl], [Alt], [Shift]
L]	参照先や画面に表示される項目を示して います。	 「第5章 OSD 操作」を 参照してください。 「LCD KVM」という起 動ロゴが表示されます。

警告表示について

本取扱説明書では、使用者や周囲の方の身体や財産に損害を与えないために以下の警告表示をしています。



- 「警告」とは、正しく使用しない場合、死亡する、または重傷 を負うような切迫した危険があることを示しています。
- ▲ 注意」とは、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の 傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自身またはその他 の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示し ています。

本文中の警告表示の仕方

警告レベルの記号の後ろに警告文が続きます。警告文は、通常の記述と区別す るため、行端を変えています。さらに、通常の記述行からは、前後1行ずつ空け ています。

(表示例)



火災

一般に利用されている他の電源供給ケーブルを利用すると火災 などが発生する危険があります。

また、重要な警告表示は、「はじめに」の次、「安全上の注意事項」中に「重 要な警告事項の一覧」としてまとめて記載しています。

製品の使用環境

本製品は一般のオフィス環境において、一般の使用者が安全に使用できるよう 設計および製造されています。本製品をご使用いただく場合には本取扱説明書に 記載されている設置や取り扱い上の注意事項を守ってください。上記の記述の範 囲外で使用した場合、使用者および周囲の方の身体や財産に予期しない傷害を生 じるおそれがあります。

また本製品は、日本国内で使用することを前提に製造・販売しています。した がって、日本国外での使用はできません。万一ご使用された結果の影響につきま しては、一切責任を負いかねます。

安全上の注意事項

重要な警告事項の一覧

本取扱説明書中に記載している重要な警告事項は以下のとおりです。



正しく使用しない場合、死亡する、または重傷を負うことがあ り得ることを示しています。

作業区分	警告事項	ページ
保守時	感電・発火	P.vi
	本製品および当社提供のオプション製品について、以下に	
	示す作業は当社技術員が行います。	
	お客様は絶対に作業しないようお願いいたします。感電、	
	けが、発火のおそれがあります。	
	 装置の新規設置/移動 	
	 電源ケーブルおよびフラットディスプレイ接続 	
	ケーブルの抜き差し	
	 フラットディスプレイ装置の搭載/取り外し 	
その他	損害	P.vi
	本製品に改造を加えたり、本製品の中古品をオーバーホー	
	ルなどによって再生して使用する場合、お客様や周囲の方	
	の身体や財産に予期しない損害が生じるおそれがありま	
	す。	
通常使用時	火災	P.1-6
	指定されたオプション品および添付されているケーブル以	r.1-10
	外のケーブルを利用すると、火災などが発生する危険があ	
	ります。	



正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うこと があり得ることと、当該製品自身またはその他の使用者などの 財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

作業区分	警告事項	ページ
保守時	指のケガ 本装置をラックに納入する際、セーフティーロックを解 除した後は安全機構がないため、スライドレールでの指 のケガに注意してください。	P.3-3
通常使用時	装置損傷 キーボードパネルには、長時間無理な力がかからないよ うにしてください。	P.3-3
	装置損傷 ログイン情報を忘れた場合は修理交換となります。	P.4-2 P.5-1
	データ破壊 本装置が接続されたサーバが起動中で、通常に使用している間は、絶対にファームウェアアップグレードモードを起動しないでください。 サーバを操作できなくなり、サーバ側へ予期せぬ障害を与える可能性があります。	P.5-16

製品取り扱い上の注意事項

メンテナンスについて

本製品の修理はお客様自身で行わないでください。富士通に連絡のうえ、富士通の技術員または富士通が認定した技術員によるメンテナンスを受けてください。

本製品の装置内部には、高電圧および高温部分があります。富士通の技術員ま たは富士通が認定した技術員によるメンテナンスの目的以外では、装置のカバー は絶対に開けないでください。

接続可能な機器など

本製品には富士通で指定した機器だけを接続してください。これら以外の機器 を接続した場合、お客様や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じるおそ れがあります。

お客様の作業範囲について

▲警告 本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作 業は当社技術員が行います。

> お客様は絶対に作業しないようお願いいたします。感電、けが、 発火のおそれがあります。

- 装置の新規設置/移動
- 電源ケーブルおよびフラットディスプレイ接続ケーブルの抜き差し
- フラットディスプレイ装置の搭載/取り外し

電源ケーブルについて

電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。感電、 発火のおそれがあります。

本製品の改造/再生について

▲ 警告

本製品に改造を加えたり、本製品の中古品をオーバーホールなど によって再生して使用する場合、お客様や周囲の方の身体や財産 に予期しない損害が生じるおそれがあります。

使用済製品の引き取りとリサイクルについてのお願い

- この製品の所有権が事業主の場合には、使用後に廃棄される製品は産業廃棄 物扱いとなり、廃棄する際にはマニフェスト伝票(廃棄物管理表)の発行が 必要となります。
- 製品所有者が当社に廃棄を依頼される場合には、富士通リサイクル受付センターをご利用ください。
 詳しくは、環境活動のホームページ(http://eco.fujitsu.com/jp/)をご覧いただくか、または営業担当者にお問い合わせください。
- 富士通パソコンリサイクル受付センターは、個人のお客様専用受付窓口のため、ご利用いただけませんのでご注意ください。
- 当社では、富士通リサイクルシステムを構築し、リサイクルセンターで使用 済製品の解体、分別処理により、部品の再使用や材料へのリサイクルを行っ ています。

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がございましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記 URL の「お問い合わせ」から送付してください。

SPARC Enterprise マニュアルのサイト http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/

目	次
Ħ	次

はじめい	-	i
16 0 001	本書の構成と内容	i
	表記上の規則	ii
	製品の使用環境	
安全上の	の注意事項	iv
	重要な警告事項の一覧	iv
製品取り	り扱い上の注意事項	vi
	メンテナンスについて	vi
	接続可能な機器など	vi
	お客様の作業範囲について	vi
	電源ケーブルについて	vi
	本製品の改造/再生について	vi
	使用済製品の引き取りとリサイクルについてのお願い	vii
	ご意見をお寄せください	vii
第1章	製品概要	
	1.1 特長	1-1
	1.2 仕様	1-2
	1.3 添付品	1-4
	1.4 設置諸元	1-4
	1.5 オプション品一覧	1-5
	1.6 注意事項	1-7
	1.7 製品各部名称	1-8
	1.7.1 装置外観と各部名称	1-8
	1.7.2 製品リアパネルと各部名称	1-10
		1-11
	1.7.3.1 日本語キーホートセナル SEUX9LC11F	1-11
	1.7.3.2 UNIX キーホートモナル SEUX9LU12F 1.7.4 Sup 特殊キーの表示	1-11 1_12
		1-12
第2章	ハードウェアセットアップ	2-1
	2.1 サーバとの接続	2-1
第3章	製品の取り扱い方	3-1
72 0 4	3.1 ラックから引き出す/LCD パネルを開く	
	3.2 LCD パネルを閉じる/ラック内へ収納する…	

	3.3 LCD 調整	3-4
	3.3.1 LCD 調整ボタン	3-4
	3.3.2 LCD スクリーンの調整設定	3-5
	3.4 本装置の起動とシャットダウン	3-6
	3.4.1 本装置の起動	3-6
	3.4.2 本装置のシャットダウン	3-6
	3.5 ホットプラグ	3-6
	3.6 タッチパッドの操作方法	3-7
第4章	本装置の基本操作	4-1
	4.1 本装置へのログイン	4-1
	4.2 ポートの切替方法	4-2
	4.2.1 プッシュ型スイッチによるダイレクトな切替	4-2
	4.2.2 ホットキー操作による切替	4-3
	4.2.3 OSD メニューによる切替	4-4
第5章	OSD 操作	5-1
	5.1 本装置へのログイン	5-1
	5.2 OSD メニューでの操作方法	5-3
	5.3 OSD メニュー画面項目説明	5-4
	5.4 OSD ファンクション	5-6
	5.5 OSD ファンクション説明	5-8
第6章	ホットキー詳細	6-1
	6.1 ホットキーモードの起動	6-1
	6.2 ホットキーによるポート切替	6-2
	6.2.1 ポート番号指定によるダイレクトな切替	6-2
	6.2.2 オートスキャンモードによる自動切替	6-2
	6.3 ホットキー設定	6-4
笛7音	Sun キーボード エミュレーション	7-1
л, - -	7.1 Sun キーボードエミュレーション	7-1
笛 8 音	トラブルシューティング	8-1
213 O +	8.1 トラブルシューティング	
/ ^= •		
1寸録 A		A-1
	A.1 工场出荷時設定(KVM OSD 設定)	A-1
	A.2 工場出荷時設定(LCD OSD 設定)	A-2

図表目次

図目次

図 1.1	装置外観	
図 1.2	製品リアパネル	1-10
図 1.3	日本語キーボード配列	1-11
図 1.4	UNIX キーボード配列	1-11
図 1.5	Sun キーボードマッピング表の表示位置	1-12
図 2.1	装置接続例	2-1
図 3.1	スライドリリースキャッチ操作	
図 3.2	セーフティロック解除	
図 3.3	操作上の注意	
図 3.4	タッチパッド	
図 4.1	起動ロゴ	
図 4.2	ログイン画面	
図 4.3	OSD メイン画面	
図 5.1	ログイン画面	
図 5.2	OSD メインメニュー	
図 5.3	OSD メニュー画面説明	
図 6.1	KVM Hotkey キー	6-1

表目次

表 1.1	装置仕様	1-2
表 1.2	装置添付品	1-4
表 1.3	設置諸元	1-4
表 1.4	オプション品一覧	1-5
表 1.5	装置各部名称	1-9
表 1.6	製品リアパネル各部名称	1-10
表 3.1	LCD 調整ボタン	3-4
表 3.2	LCD スクリーンの調整設定	3-5
表 4.1	ホットキー操作によるポート切替	4-3
表 5.1	OSD メニュー操作方法	5-3
表 5.2	OSD メニュー画面説明	5-4
表 5.3	OSD ファンクションの機能概要	5-6
表 5.4	OSD ファンクション構造	5-7
表 5.5	OSD ファンクション説明	5-8
表 6.1	ホットキー設定	6-4
表 7.1	Sun キーボードエミュレーション	7-1
表 8.1	トラブルシューティング	8-1
表 A.1	工場出荷時設定(KVM OSD 設定)	A-1
表 A.2	工場出荷時設定(LCD OSD 設定)	A-2

第1章 製品概要

本装置は、8 ポート KVM スイッチを内蔵し、17 インチ TFT 液晶、キーボード、2 ボタンタッチパッドを装備した 19 インチラックの 1U ピッチに格納可能なディ スプレイ装置です。

SE0X9LC11F: 日本語キーボードタイプ

SE0X9LC12F: UNIX キーボードタイプ

本装置は、SPARC Enterprise、PRIMEPOWER、S series、PRIMEQUEST で使用 できる共通製品です。

1.1 特長

本装置の主な特長を以下に説明します。

- 19インチラック 1U に格納可能な薄型液晶ディスプレイ・キーボード・タッ チパッドー体型ユニットです。
- 17インチ TFT カラー液晶(1280×1024)を搭載しています。
- 24 ビットフルカラー(1670 万色)表示が可能です。
- キーボードには日本語配列、UNIX 配列の2種類があります。
- 3ボタン操作のエミュレーション機能付きです。
- 8 ポート KVM スイッチを内蔵しており、最大 8 台までのサーバで共有できます(本装置の外部に他の KVM スイッチを接続するカスケード接続は未サポートです)。
- SPARC Enterprise、PRIMEPOWER、S series、PRIMEQUESTの混在構成でも 使用できます。
- セキュリティにも対応しています(本装置へのログイン情報の設定が可能です)。

1.2 仕様

本装置の仕様を表 1.1 に示します。

表 1.1 装置仕様

項目		仕様	
液晶		17インチ TFT カラー液晶	
有効画面サイズ(横×縦)		約 337.9×270.3mm	
ピクセルピッ	F	0.264×0.264mm	
		1280×1024 ドット(60Hz/67Hz/75Hz)	
		1152×900 ドット(66Hz/76Hz)	
志云 解佈 (1)	₩ > ₩)	1024×768 ドット (75Hz)	
衣 小胖隊反(英 へ 私に)	800×600 (75Hz/60Hz)	
		720x400 (70Hz)	
		640x480 (60Hz)	
垂直周波数		75Hz(最大)	
水平周波数		30.0~80.0kHz	
相略色		水平:80度	
元判円		垂直:75度(上)、85度(下)	
チルト範囲		0~+110度	
		最大8台	
サーバ接続台	数	(本装置の外部に他の KVM スイッチを接続	
		するカスケード接続は未サポートです)	
	サーバ接続用ポート	SPHD18 ピン×8 ポート	
		未サポート	
コマカカ形		 ディスプレイ用(アナログ RGB) 	
コイククル 状	セカンドコンソール 部	$z = Dsub15 \forall y x1$	
		• ギーホード用 (PS/2) ミニ DIN6 ピンッ1	
		$\neg D I R (DS/2)$	
		$\lesssim DIN6 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$	
		ポート LED(オンライン LED/橙:左側、	
表示およびスイッチ		選択 LED/緑:右側)x8	
		ポート選択スイッチ x8	
		 ポート選択スイッチ 	
		• OSD メニュー (カーソルで選択して切	
ポート切替方	法	替)	
		 専用キー(ホットキー) 	
		 オートスキャン(1~255 秒:初期値 5 	
		秒)	

- 注1: XVR-200 アクセラレータを使用する場合、以下の表示解像度は使用 しないでください。
 - 1280 x 1024 ドット (67Hz) 1152 x 900 ドット (66Hz) 1152 x 900 ドット (76Hz)
- 注2: Solaris OS使用時、表 1.1記載の一部の解像度では、設定を変更した ときに以下のような確認のメッセージが表示される場合がありま す。 動作に問題はありませんので、 [Y] キーを押して設定を変更して ください。
 - 例: XVR-100 アクセラレータで 1280×1024 ドット(67Hz)を使用 の場合

#fbconfig -res 1280x1024x67

SUNWpfb_config: Cannnot verify that 1280x1024x67 is a supported video resolution for this monitor

SUNWpfb_config: Use 1280x1024x67 anyway (yes/no)?

1.3 添付品

本装置の添付品を表 1.2 に示します。

表 1.2 装置添付品

品名	数量	備考
ラック取り付けガイドレール	1セット	SPARC Enterprise/PRIMEPOWER 用 19 インチラック Sun Rack 900(S series 用) PRIMEQUEST 用 19 インチラック
100V 電源ケーブル(3m)	1	
取扱説明書	1	本冊子
保証書	1	

1.4 設置諸元

本装置の添付品を表 1.3 に示します。

表 1.3 設置諸元

項	目	仕様	備考	
为 形 — + 汁	ラック格納時	480mm x 634mm x 44mm		
2h形寸伝 (幅南行百)	引き出し時	480mm x 1158mm x 44mm		
(幅 X 與1) X 問)	LCD引き起し時	480mm x 1158mm x 410mm		
質量		12.9kg		
	電圧	AC100V~240V		
取扱説明書	相数	単相		
	周波数	50/60Hz		
淡弗雷 士		32.1W(最大)		
伯貨電力		5.72W(待機時)		
皮相電力		59VA		
発熱量		105kJ/h		
周囲環境条件	温度	5∼35 ℃	結露が ないこと	
(動作時)	湿度	20~80%		
周囲環境条件	温度	0∼50 °C		
(非動作時)	湿度	8~80%		
ラック搭載時専有ピ	ッチ	1U		
搭載可能ラック		SPARC Enterprise/PRIMEPOWER 用 19インチラック Sun Rack 900 (S series 用)		

1.5 オプション品一覧

本装置のオプション品を表 1.4 に示します。

表 1.4 オプション品一覧

品名	I	型名	備考
フラット ディスプレイ 接続ケーブル		DCBL- FDU02	 サーバ側コネクタ形状 ミニ Dsub15 ピン (ディスプレイ側) +USB (キーボード側) 線長 1.8m
	USB 用	DCBL- FDU03	 サーバ側コネクタ形状 ミニ Dsub15 ピン (ディスプレイ側) +USB (キーボード側) 線長 3.0m
		DCBL- FDU05	 サーバ側コネクタ形状 ミニ Dsub15 ピン (ディスプレイ側) +USB (キーボード側) 線長 5.0m
	SUN シリアル 用	DCBL- FDN02	 SE0X9LC11F(日本語キーボード)専用 サーバ側コネクタ形状 ミニ Dsub15 ピン(ディスプレイ側) +ミニ DIN8 ピン(キーボード側) 線長 1.8m
		DCBL- FDN05	 SE0X9LC11F(日本語キーボード)専用 サーバ側コネクタ形状 ミニ Dsub15 ピン(ディスプレイ側) +ミニ DIN8 ピン(キーボード側) 線長 5.0m
		DCBL- FDS02	 SE0X9LC12F(UNIX キーボード)専用 サーバ側コネクタ形状 ミニ Dsub15 ピン(ディスプレイ側) +ミニ DIN8 ピン(キーボード側) 線長 1.8m
		DCBL- FDS05	 SE0X9LC12F(UNIX キーボード)専用 サーバ側コネクタ形状 ミニ Dsub15 ピン(ディスプレイ側) +ミニ DIN8 ピン(キーボード側) 線長 5.0m
200V AC ケーブル		DCBL- PWG03	200V 接続を行う場合に使用 IEC320 線長 3m
		DCBL- PWC03	200V 接続を行う場合に使用 NEMA L6 線長 3m



火災

表 1.4のオプション品および添付されているケーブル以外のケー ブルを利用すると、火災などが発生する危険があります。

1.6 注意事項

本装置には以下の注意事項があります。

- 液晶ディスプレイ特性について 液晶ディスプレイでは、一部に輝点(常時点灯しているドット)や暗点(常 時消灯しているドット)が存在する場合があります。これは液晶の特性によ るもので、故障ではありません。
- PRIMEPOWER 250/450 一部機種のファームウェア(HCP) 版数について 2003 年 6 月以前に出荷された PRIMEPOWER250/450 で本体装置のファーム ウェア(HCP)の版数が 0301 以前の場合はパッチが必要です。 パッチ適用については、当社技術員にご確認ください。
- S series の USB パッチについて
 S series でご使用の場合は必ず、以下の USB パッチを適用してください。
 - Solaris 8 OS(各リリース)
 109896-29 以降 SunOS 5.8: USB and Audio Framework patch 推奨&セキュ リティで公開(一括修正は R05081 以降)
 - Solaris 9 OS(各リリース)
 15553-15 以降 SunOS 5.9: USB Drivers and Framework Patch 推奨&セキュ リティで公開(一括修正は R05081 以降)

パッチ適用については、当社技術員にご確認ください。

本装置の設定情報について
 本装置に設定した情報は、本装置を交換すると引き継ぐことができません。
 交換後は工場出荷時の状態となりますので、必要に応じて再設定してください。

1.7 製品各部名称

1.7.1 装置外観と各部名称

本装置の外観図を図1.1に示します。



図 1.1 装置外観

本装置の各部名称を表 1.5 に示します。

表 1.5 装置各部名称

No.	名称	説明
1	LCD パネル側 ハンドル	本装置の引き出し・収納作業を行うときに使用します。 取り扱い方法については「第3章 製品の取り扱い方」 を参照してください。
2	LCD パネル	17インチ LCD パネルです。
3	LCD 調整ボタン	LCD 表示調整を行います。詳細については、「3.3.1 LCD 調整ボタン」を参照してください。
4	ポート選択 スイッチ	サーバ側ポート 1~8 に対応したプッシュ型スイッチで す。このスイッチを押すと、手動によるポート切替を行 うことができます。
5	ポートLED	 ポート選択スイッチに2個のLEDが内蔵されています。 オンラインLED(オレンジ:左側) オンラインLEDが点灯しているときは、対応しているポートに接続されたサーバの電源がオンであることを示します。 選択LED(グリーン:右側) 選択されているポートが点灯します。 本装置がオートスキャンモードで動作中の場合は、現在スキャン中のポートが点滅しています。
6	キーボード	ホットキー入力/OSD 呼び出し専用キーを搭載した、 105 キーです。
7	タッチパッド& クリックボタン	マウス操作を行うタッチパッドとクリックボタンです。
8	電源 LED	本装置の電源状態を示します。電源がオンになっている ときは、青色に点灯します。
9	ラックマウント タブ	システムラックへの取り付け時に、ネジ止めを行いま す。ラック搭載作業を行うときは当社技術員にご連絡く ださい。
10	Lock LED	現在選択しているポートに接続されたサーバの、Num Lock/Caps Lock/Scroll Lock 状態を表示します。
11	リセット スイッチ	通常は使用しません。 ポートの切替やキーボードなどの操作ができなくなった ときに、このボタンを押すとログイン画面に戻ります。
12	ファームウェア アップグレード ポート	本装置では使用しません(未サポート)。
13	スライド リリース キャッチ	本装置の引き出し・収納作業を行うときに使用します。 取り扱い方法については、「第3章 製品の取り扱い 方」を参照してください。

1.7.2 製品リアパネルと各部名称

本装置のリアパネルを図 1.2 に示します。



図 1.2 製品リアパネル

リアパネルの各部名称を表 1.6 に示します。

表 1.6 製品リアパネル各部名称

No.	名称	説明
1	電源ソケット	AC ケーブルを接続します。
2	電源スイッチ	本装置の電源オン/オフを行うロッカース イッチです。
3	セカンドコンソールポート	本装置では使用しません(未サポート)。
4	サーバ側ポート	対応するフラットディスプレイ接続ケーブル を使用して、サーバとの接続に使用します。



火災

指定されたオプション品および添付されているケーブル以外の ケーブルを利用すると、火災などが発生する危険があります。

1.7.3 キーボード配列

本装置のキーボード配列は以下の通りです。

1.7.3.1 日本語キーボードモデル SE0X9LC11F



図 1.3 日本語キーボード配列

1.7.3.2 UNIXキーボードモデル SE0X9LC12F

$ \begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	NumLk / * - Del 7 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16
	t 1 2 2 3 PyDn 0 Irs ↓ Enter trs

図 1.4 UNIX キーボード配列

1.7.4 Sun特殊キーの表示

本装置には Sun キーボードマッピング表が印字されています。このマッピング 表は、Solaris OS を使用する場合の Sun 特殊キーのエミュレーション対応表に なっています。

Sun キーボードエミュレーションの詳細については、「第7章 Sun キーボードエミュレーション」を参照してください。



図 1.5 Sun キーボードマッピング表の表示位置

マッピング表の拡大図

Sun Keyboard (Mouse Middle Button) Emulation												
SUN	Key Input	SUN	Key Input	SUN	Key Input	SUN	Key Input	SUN	Key Input	SUN	Key Input	[Notes]
Stop	= [Ctrl]→[T]	Undo	= [Ctrl]→[F4]	Open	= [Ctrl]→[F7]	Cut	= [Ctrl]→[F10]	()+ =0	= [Ctrl]→[3]	Compose	Ē	1. Please push the keys in order. (ex.*Open* = First Push [Ctrl] and release, and
Again	= [Ctrl]→[F2]	Front	= [Ctrl]→[F5]	Paste	= [Ctrl]→[F8]	□¶	= [Ctrl]→[1]	(= [Ctrl]→[4]	•	ne Ng	push [F7]) 2. How to input "Stop+[A]" ①Push [Ctrl] and release
Props	= [Ctrl]→[F3]	Сору	= [Ctrl]→[F6]	Find	= [Ctrl]→[F9]) -=0	= [Ctrl]→[2]	Help	= [Ctrl]→[H]	Middle Button	= [Ctrl]→[5]	2Push [T] and hold 3Push [A]

第2章 ハードウェアセットアップ

2.1 サーバとの接続

サーバとの接続作業は、当社技術員にご連絡ください。接続例を以下に示しま す。



図 2.1 装置接続例

第3章 製品の取り扱い方

3.1 ラックから引き出す/LCDパネルを開く

本装置のコンソールは、ラック収納状態から本体を引き出し、LCD パネルを 引き起こしてから使用します。

- ラック収納状態から、フロントパネル両側にあるスライドリリースキャッチ を操作し、ロックを解除してください。
- 2) 本装置を「カチッ」という音がして固定されるまで、手前に引き出してくだ さい。
- 3) LCD パネルを引き起こしてください。



図 3.1 スライドリリースキャッチ操作

注: 取り扱い上の安全のため、ラック収納位置で本装置が固定されるよう に、フロントパネル両側にスライドリリースキャッチが付いていま す。

3.2 LCD パネルを閉じる/ラック内へ収納する

本装置は、以下の手順でラック内へ収納してください。

- LCD パネルを閉じてください。パネルを倒すと、LCD パネル電源が自動的 にオフになります(オフになった LCD パネル電源は、再度開けるとオンに なります)。
- 2) ユニット両側面のスライドレールには、収納時に指を挟むような事故を防ぐ ため、セーフティロック(白いプラスチック)が付いています。まず両手で 本体手前の両側角を保持し、セーフティロックを指で手前に引っ張り、ロッ クを外してください。ロックが外れると「カチッ」という音がします。



図 3.2 セーフティロック解除

- ロックが外れたことを確認したら、本体を軽く手前に引き出した後(5cm 程度)、セーフティロックから指を離します。それから静かに押してラックに 収納してください。
- 4) 本体がラック内へ完全に収納されると、フロントパネル両側のスライドリ リースキャッチが自動的に本体をロックします。


キーボードパネルはある程度の加重に耐えるよう設計されて いますが、安全にお使いいただくため、長時間無理な力がか からないようにしてください。



図 3.3 操作上の注意



本装置をラックへ収納する際、セーフティーロックを解除し た後は安全機構がありません。スライドレールでの指詰め防 止のため、レールから指を離して収納してください。



3.3 LCD 調整

ここでは、LCD 調整ボタンと LCD スクリーンの調整設定について説明します。

3.3.1 LCD調整ボタン

LCDパネル下部にある 4 つのボタンで、ディスプレイ表示が調整できます。 LCD調整ボタンの機能を表 3.1 に示します。

ボタン	機能
MENU	 OSD メニュー機能を操作していないときにこのボ タンを押すと、OSD メインメニューが表示されま す。
	 ナビゲーションボタン (▶▲ または ●▼) で OSD メニュー項目の選択をしているときにこの ボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
	このボタンでメニューの右または上を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
⋖ ▼	このボタンでメニューの左または下を選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことが できます。
	 OSD メニュー機能を使用していないときにこのボ タンを押すと、OSD 側で最適な LCD の設定を自 動検出して設定します。
EXIT	 OSD メニュー機能を使用しているときにこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。
	 メインメニューを操作しているときにこのボタン を押すと、OSDメニュー機能を終了します。

表 3.1 LCD 調整ボタン

注: ナビゲーションボタンを2個同時に押すと、LCDパネルのサービスメ ニュー(FACTORY MODE)が表示されますが、絶対に操作しないで ください。

LCD パネルのサービスメニュー (FACTORY MODE) を誤って表示してしまった場合は、調整ボタンを操作しないで数秒待つと、自動的に 消去されます。

3.3.2 LCDスクリーンの調整設定

LCDスクリーンの調整に関する説明を表 3.2 に示します。

表 3.2 LCD スクリーンの調整設定

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レ ベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レ ベルを調整します。
Phase (フェーズ)	画面にチラツキ、ノイズが出ている場合には、 フェーズを調整します。
Clock (クロック)	画面縦方向の波(モアレ)が生じている場合に は、クロックを調整します。
H-Position (水平位置)	LCD パネル内の表示部分の横方向の位置を設定します(表示画面を左右の方向に動かして調整します)。
V-Position (垂直位置)	LCD パネル内の表示部分の縦方向の位置を設定します(表示画面を上下の方向に動かして調整します)。
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカ ラーバランスなどを調整できます。 「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメ ニューでさらに細かく RGB 値を調整できます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD メニュー表示時間)	画面上に OSD メニューを表示している時間の長さ を設定します(5~100 秒の間、1 秒刻みで設定可 能)。
Reset (リセット)	Language (言語) 以外のすべてのメニューを工場 出荷時の設定に戻します。

3.4 本装置の起動とシャットダウン

ここでは、本装置の起動とシャットダウンについて説明します。

3.4.1 本装置の起動

本装置は以下の手順で起動してください。

- 製品に電源ケーブルが接続されていることを確認してから、リアパネルの電源スイッチをオンにしてください。
- 2) LCD パネルに「LCD KVM」という起動ロゴが表示された後、本装置へのロ グイン画面が表示されます。

ログイン方法については、「4.1 本装置へのログイン」を参照してください。

3.4.2 本装置のシャットダウン

本装置は以下の手順でシャットダウンしてください。

- 接続されているサーバの電源状態を確認し、必要がある場合は事前にサーバ をシャットダウンしてください。
 PS/2 ケーブルで接続されている場合、本装置のシャットダウンによって キーボードエミュレーション信号が一時的に失われるため、サーバ動作に不 具合が生じる可能性があります。
- 2) 本装置リアパネルの電源スイッチをオフにしてください。

3.5 ホットプラグ

本装置は起動中でもフラットディスプレイ接続ケーブルの抜き差しを行うこと ができる、ホットプラグ機能を持っています。 本装置の設置後にサーバの増設や取り外し、接続ポートの移動を行う必要が出て きた場合、ホットプラグ機能を使用すると、対象ポート以外のサーバを起動した まま、作業を行うことが可能です。

作業を行う場合は当社技術員にご連絡ください。

注: サーバが OBP 状態 (OK プロンプト) に落ちている場合、ホットプラ グは実施できません。 その場合は、サーバの電源を落とすか、OS を起動してから実施して ください。

3.6 タッチパッドの操作方法

本装置のキーボードパネルには、GUI用の直感的な操作を助けるポインティン グデバイスとして、静電容量方式タッチパッドが搭載されています。



図 3.4 タッチパッド

- タッチパッド 表面を指でなぞると、マウスポインタが移動します。
 タッチパッドを指先で軽く叩くと、左クリックボタンと同様の操作になります。
 左クリックボタンを押したままタッチパッドの表面を指でなぞると、ドラッ グ操作になります。
- 左クリックボタン
 シングルクリックやダブルクリックで、選択/決定ができます。
- 右クリックボタン
 メニューを表示するときなどに使用します。
 - 注: 3 ボタンマウスのミドルボタン(中ボタン)機能については、Sun キーボードエミュレーションにより、[Ctrl]キーと数字[5]キーの 組み合わせで実現しています。詳細については、「第7章 Sun キー ボードエミュレーション」を参照してください。

第4章 本装置の基本操作

4.1 本装置へのログイン

本装置の電源をオンにすると、「ピッ」と短いビープ音が鳴り、LCD に「LCD KVM」という起動ロゴが表示されます。



図 4.1 起動ロゴ

起動ロゴが表示された後、本装置へのログイン画面が表示されます。

ENTER NAME AND PASSWORD
USERNAME
PASSWORD:

図 4.2 ログイン画面

本装置を操作するには、最初にこの画面でログインする必要があります。

- 本装置の初回起動時やアドミニストレーター/ユーザー設定がされていない 場合は、ダイアログボックスには何も入力しないで[Enter] キーを 2 度押 します。 これによって、アドミニストレーター権限でログインできます。
- ログインすると OSD メニューがアドミニストレーターの権限で起動し、 ユーザーアカウントの設定を含めたすべての OSD ファンクションが使用可 能になります。
- 本装置の OSD メニューからログアウトすると、ユーザーネームとパスワードを入力するログイン画面に戻ります。

 OSD 表示のホットキーはデフォルトでは [Scroll Lock] キーになっていますが、[Ctrl] キーに変更することも可能です(詳細については、「5.5 OSD ファンクション説明」の「F3:SET/OSD HOTKEY」を参照してください)。 [Ctrl] キーを使う場合には、キーボードの同じ側の [Ctrl] キーを連続して押してください(左または右側を2回)。

4.2 ポートの切替方法

本装置に接続されたサーバのポート切替方法には、以下の3種類があります。

- プッシュ型スイッチによるダイレクトな切替
- ホットキー操作による切替
- OSD メニューによる切替

4.2.1 プッシュ型スイッチによるダイレクトな切替

本装置のキーボードパネル奥側には、サーバ側ポート 1~8 に対応したプッシュ型スイッチのポート選択スイッチがあります。このポート選択スイッチを押 すと、対応するポートに接続されたサーバにコンソールが切り替わります。

4.2.2 ホットキー操作による切替

本装置は特定のキー操作の組み合わせ(ホットキー操作)によるポート切替が可能です。

最初に本装置をホットキーモードにしてから、ホットキー操作を行います。 キーボード上にある、「KVM Hotkey」キーを押すか、キーボード上で以下の操 作を行います。

- 1) [Num Lock] キーを押した状態を保持します。
- [-] (マイナス) キーを押して放します([-] を約 0.5 秒以内に放します)。
- 3) 最後に [Num Lock] キーを放します。

ホットキーモードが起動すると、画面にホットキー入力フィールドが表示され ますので、切り替えたいポート番号を入力してから、最後に[Enter]キーを押 してください。

表 4.1 ホットキー操作によるポート切替

ホットキーモード起動	ポート番号	確定	
KVM Hotkey	[n]	「Enter】キー押下	
[Num Lock] + [-]	(任意の数字)キー		
または			
[Ctrl] + [F12]			

- 注: [-] (マイナス)キーはテンキー側のキーを使用してください。英数字キー側の[-] (マイナス)キーは機能しません。
 - [n] (任意の数字) キーは、英数字キー側の数字キーを使用してください。テンキー側の数字キーは機能しません。
 - [Enter] キーは、テンキー側・英数字キー側の両方が使用できま す。

ホットキー操作の詳細については、「第6章 ホットキー詳細」を参照してく ださい。

4.2.3 OSDメニューによる切替

本装置はポート切替の各種操作のほかに、製品本体の設定などを行う OSD メニュー機能を搭載しています。OSD メニューによる切替には、以下の 2 種類の 方法があります。

- ポート番号またはポートネームの頭文字を入力する方法
 - 1) OSD メイン画面(下図参照)が表示されている状態で、[F1] キーを 押します。
 - 2) 切り替えたいポート番号を入力するか、またはポートネームの頭文字 を入力して、リストで選択します。
 - 3) [Enter] キーを押します。
- リスト表示から選択する方法
 - リスト表示で切り替えたいポートにハイライトバーを合わせて [Enter] キーを押します。
 または、マウスでカーソルを移動して切り替えたいポートを選択後、
 その位置でダブルクリックします。

F1:GOTO F2:LIST ADMINIS LIST:AL	D F3 F4 STRATOF	:SET :ADM R	F7:SCAN F8:LOUT	IX zzzz
PN	QV	¢	NAME	
1	•	¢	SERVER.1 SERVER.2	
3		¢	SERVER. 3	
4 5	•	¢	FAX SERVER 1 FAX SERVER 2	
6	•	¢	WEB SERVER 1	
7 8	•	¢	WEB SERVER 2 MAIL SERVER 1	* *

図 4.3 OSD メイン画面

OSD メニューの詳細については、「第5章 OSD 操作」を参照してください。

第5章 OSD操作

5.1 本装置へのログイン

本装置は OSD (オンスクリーンディスプレイ)機能を持っています。OSD は リスト選択形式で本装置の諸設定および接続されたサーバの管理を行います。 OSD メニューを表示するためには、まず本装置にログインする必要があります。

本装置にログインするには、キーボードの[OSD] キーを押すか、または [Scroll Lock] キーを2度押してください。

注: OSD表示のホットキーはデフォルトでは [Scroll Lock] キーになっていま すが、 [Ctrl] キーに変更することも可能です(詳細については、「5.5 OSDファンクション説明」の「F3:SET / OSD HOTKEY」を参照してくだ さい)。

[Ctrl] キーを使う場合には、キーボードの同じ側の [Ctrl] キーを連続 して押してください(左または右側を2回)。



図 5.1 ログイン画面

本装置の初回起動時やアドミニストレーター/ユーザーが設定されていない場 合は、ダイアログボックスに何も入力しないで、[Enter]キーを2度押すと、ア ドミニストレーター権限でログインできます。OSDメニュー画面がアドミニス トレーターの権限で起動し、ユーザーアカウントの設定を含めたすべての OSD ファンクションが使用可能になります。



OSDメインメニュー画面を以下に示します。

F1:GOT F2:LIST ADMINIS LIST:AL	D F3 F4 STRATOF L	:SET :ADM R	F7:SCAN F8:LOUT	N X Z ^{ZZ}
PN	QV	¢	NAME	
1	•	¢	SERVER.1	
2		_	SERVER.2	↑
3		¢	SERVER.3	
4	<	¢	FAX SERVER 1	
5			FAX SERVER 2	
6	<	¢	WEB SERVER 1	
7			WEB SERVER 2	+
8	<	¢	MAIL SERVER 1	▼

図 5.2 OSD メインメニュー

- 注: この画面例はアドミニストレーター権限でログインしたときのメイ ンメニューです。ユーザー権限でログインしたときのメニューに は、「F4 ADM」の項目は表示されません。
 - OSD メニューはリスト選択の形式で操作します。選択位置を示すハ イライトバーは、OSD 画面が前回閉じられたときの位置に表示され ます。
 - アクセス可能なポートが設定されている場合は、ログインしたユー ザーがアクセス可能なポートのみが表示されます(詳細については 「5.5 OSDファンクション説明」の「F4:ADM / SET ACCESSIBLE PORTS」を参照してください)。

5.2 OSD メニューでの操作方法

OSDメニュー内部では、キーボードの特定のキーおよびタッチパッドによる カーソルで操作を行います。基本的な操作方法を、表 5.1に示します。

表 5.1 OSD メニュー操作方法

基本操作	キーボードまたはタッチパッド操作
	以下の3種類から選択できます。
	 上下カーソルキー(リストで1段ずつ移動)
操作メニュー選択	• [Page UP] [Page Down] キー(リストで ページ移動)
	 タッチパッドによるカーソル操作、シングル クリック
文字列の入力	キーボードの任意のキー
	以下の3種類から選択できます。
	• [Enter] キー
決定	• [Y] [N] キー
	 画面に表示されている [Y] [N] をシングル クリック
	以下の2種類から選択できます。
キャンセル	• [Esc] キー
	 画面右上隅の「×」マークをシングルクリック
	以下の2種類から選択できます。
上の階層のメニューに	• [Esc] キー
戻る	 画面右上隅の「×」マークをシングルクリック
OSD メニューを閉じる	OSD メインメニューが表示されている状態で、 [Esc] キーを押すか、または画面右上隅の「×」マークをシ ングルクリック
	以下の2種類から選択できます。
本装置からログアウト する	 [F8] キーを押してから、[Y] キーまたは [Enter] キーを押す
	 OSD 画面右上の「F8:LOUT」か「ZZZ」マー クをシングルクリックしてから、[Y] キー または [Enter] キーを押す

- 注:

 一部のメニューには、操作を行った直後に自動的に上の階層のメニューに戻るものがあります。
 - OSD 内で使用しない、または不要なキー入力を行った場合には、
 OSD 下部に無効なキー入力であることを知らせるメッセージ 「INVALID KEY」が表示されます。

5.3 OSD メニュー画面項目説明

ここでは OSD メニュー画面を示して、各項目について説明します。



図 5.3 OSD メニュー画面説明

表 5.2 OSD メニュー画面説明

項目	説明
OSD ファンクション	OSD メニューで実行可能な KVM 操作および本体設定メ ニュー項目を表示しています。 ・ アドミニストレーター権限の場合の表示 F1:GOTO F2:LIST F3:SET F4:ADM F7:SCAN F8:LOUT ・ ユーザー権限でログインした場合の表示 F1:GOTO F2:LIST F3:SET F7:SCAN F8:LOUT
	 ファンクションを実行するには、対応するファンクションキーを押すか、またはカーソルをメニュー項目に合わせてシングルクリックします。 各ファンクションの詳細については、「5.4 OSDファンクション」を参照してください。
ログインユーザー名	現在ログインしている権限(ADMINISTRATOR アドミニ ストレーター/USER ユーザー)を表示します。

項目		説明		
OSD LIST 内容	 OSD でリスト表示するポートの範囲が表示されています。以下の4種類の表示が可能です。 ALL ポートすべて QUICK VIEW クイックビューとして設定されているポートすべて POWERED ON 接続されているサーバの電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW+POWERED ON クイックビューポートとして選択され、かつ接続されているサーバの電源がオンになっている ポートのみ 			
	リスト表 します。 接続され	示は、OSD ファンクション「F2:LIST」で設定 ているサーバについて、KVM ステータスが表示		
OSD LIST 項目	entro PN	ます。各カラムの説明は以下の通りです。 <u>Port Numberの略です。1~8</u> のポートID番号を 表示しています。 本装置のサーバ側ポートは個別の番号(ポー ト ID 番号)を持っています。ハイライトバー を移動して [Enter] キーを押すと、コンソー ルが切り替わります。		
	QV	Quick <u>Vi</u> ewの略です。クイックビュー設定を表示します。 クイックビューポートとして選択されている サーバには三角マーク ◀ が表示されます。 クイックビューの詳細については、「5.5 OSDファンクション説明」の「F4:ADM / SET QUICK VIEW PORT」を参照してください。		
	¢	ポートに接続されたサーバの電源がオンのと きに、この太陽マークが表示されます。*		
	Name	接続されているサーバの判別を容易にするために、各ポートに対してポートネームを登録できます。ポートネームの詳細については、「5.5 OSDファンクション説明」の「F4:ADM / EDIT PORT NAMES」を参照してください。		

※本装置は接続されているサーバの電源状態について、キーボードインタフェースの電圧状態から判断しています。サーバの仕様によっては、実際にはサーバが起動していなくてもOSDメニューリスト内で電源オンであるかのように表示されることがあります。

5.4 OSD ファンクション

本装置の様々な機能実行を実行したり、本装置自身の設定を行ったりするOSD ファンクションの概要を、表 5.3に示します。

表 5.3 OSD ファンクションの機能概要

OSDファンクション	機能概要
F1:GOTO	任意のポートへの切替を行います。
F2:LIST	OSD メニュー画面で表示するポートの範囲を指定しま
	す。
F3:SET	本装置の操作環境を設定します。
F4:ADM	本装置を使用するユーザーのアカウント設定・タイムア ウト設定・ポートネーム設定・本体初期設定への復帰・ ビープ音設定など、管理者向けの設定を行います。一 部、ユーザー権限であってもホットキー操作によって実 行できるものも含まれています。
F7:SCAN	ポートを自動的に切り替えて表示するオートスキャン モードを実行します。
F8:LOUT	本装置からログアウトします。

OSDの全体の構造を表 5.4に示します。「参照先」は、詳細説明のページ番号を表しています。

表 5.4	OSD	ファ	ンク	シ	ョン	/構造
-------	-----	----	----	---	----	-----

OSD ファン クション	サブファンクション	実行機能	参照先
F1:GOTO		ポート切替	→P.5-8
F2:LIST		OSD LIST 表示の設定	→P.5-8
	OSD HOTKEY	OSD 呼び出しホットキーの設定	→P.5-9
	PORT ID DISPLAY POSITION	ポート ID 表示位置の設定	→P.5-9
	PORT ID DISPLAY DURATION	ポート ID 表示時間の設定	→P.5-10
F2 OFT	PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示内容の設定	→P.5-10
F3:SE1	SCAN DURATION	オートスキャン間隔の設定	→P.5-10
	SCAN MODE	オートスキャンモードの設定	→P.5-11
	SCREEN BLANKER	スクリーンブランカーの設定	→P.5-11
	HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー有効/無効の設定	→P.5-11
	HOTKEY	ホットキー起動キーの設定	→P.5-12
	SET USERNAME AND	ユーザーネーム/パスワードの	D 5 12
	PASSWORD	設定	→P.3-13
	SET LOGOUT TIMEOUT	タイムアウトの設定	→P.5-13
	EDIT PORT NAMES	ポートネームの設定	→P.5-14
	RESTORE DEFAULT VALUES	工場出荷時設定復帰	→P.5-14
	CLEAR THE NAME LIST	ネームリストのクリア	→P.5-14
F4:ADM	ACTIVATE BEEPER	ビープ音有効/無効の設定	→P.5-15
	SET QUICK VIEW PORTS	クイックビューポートの設定	→P.5-15
	SET ACCESSIBLE PORTS	ポートアクセス権限の設定	→P.5-16
	SET CONSOLE MODE	コンソールモードの設定	→P.5-16
	FIRMWARE UPGRADE	ファームウェアアップグレード	→P.5-16
	SET PORT OS	ポート OS の設定	→P.5-17
	KEYBOARD LANGUAGE	キーボード言語の設定	→P.5-17
F7:SCAN		オートスキャン	→P.5-18
F8:LOUT		本装置からのログアウト	→P.5-18

※表 5.4で、網かけしてある項目は使用しません(未サポート)。

5.5 OSD ファンクション説明

OSDの各ファンクションの詳細を表 5.5に示します。

表 5.5 OSD ファンクション説明

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
F1:GOTO	OSD メニュー画面で [F1] を押すか、カーソルを合わせ てシングルクリックをすると、ポート切替を行います。 切替先のポートを絞り込むには、ポートネームまたは ポート ID 番号を選択します。 頭文字を入力すると、該当するポートのみがリストに表 示されます。
	• ポートネームを選択して切り替える場合 [F1] → [1] キー→ [ポートネーム] → [Enter] キーの順に入力します。
	 ポート ID 番号を使用する場合 [F1] → [2] キー→ [ポート ID 番号] → [Enter] キーの順に入力します。
	ポートが選択されていない状態のまま [Esc] キーを押 すか、またはマウスで右クリックすると、OSD メニュー 画面が閉じます。ポート ID に「NULL PORT」と表示さ れ、画面はブランクになります。
F2:LIST	OSD メニュー画面で表示するポートの範囲を指定しま す。以下の4種類から選択できます。
	・ ALL ポートすべて
	 QUICK VIEW クイックビューポートとして設定されている ポートすべて
	 POWERED ON 接続されているサーバの電源がオンになってい るポート
	 QUICK VIEW+POWERED ON クイックビューポートとして選択され、かつ接 続されているサーバの電源がオンになっている ポート

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
F3:SET / OSD HOTKEY	OSD 呼び出しホットキーを設定します。 [Scroll Lock] キーまたは [Ctrl] キーを選択できます。
	デフォルト: [Scroll Lock] キー2 度押し 代替設定: [Ctrl] キー2 度押し
	ハイライトバーを [Scroll Lock] または [Ctrl] に移動し て [Enter] キーを押すか、またはマウスでダブルクリッ クすると設定できます。
	設定を終えたら [Esc] キーを押すか、またはマウスで 右クリックすると、サブファンクションを閉じて上の階 層の OSD メニュー表示に戻ります。
	ホットキー機能にも同様の操作があります。詳細については「6.3 ホットキー設定」の「ホットキードの キー変更」を参照してください。
	画面上にポート ID を表示する位置を設定します。 デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポート ID を表示できます。
	ポート ID の表示位置は、以下のいずれかの方法で設定 できます。
	 タッチパッドを使用する。
F3:SET / PORT ID DISPLAY POSITION	 [↑] [←] [↓] [→] キー、 [Page Up] [Page Down] [Home] [End] キーを使用する。
	 [Num Lock] をオフにしたテンキーの [5] を 使用する(画面中央に設定する場合)。
	上記の方法で設定してから、マウスでダブルクリックするか、または [Enter] キーを押して位置を決定します。
	表示位置の設定を途中で中止するには、 [Esc] キーを 押すか、またはマウスで右クリックしてください。
	表示位置をデフォルト(画面左上)に戻すには、 「F4:ADM / RESTORE DEFAULT VALUES」を実行して ください。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
F3:SET / PORT ID DISPLAY DURATION	画面上にポート ID を表示している時間の長さを設定します(単位:秒)。
	 User Defined:ユーザー設定(1~255) Always On:ポート ID を常に表示
	User Defined を選択した場合は、1~255 までの値を入力 してから、 [Enter] キーを押してください。 デフォルトは 3 (秒) です。0 を選択すると、ポート ID
	は表示されません。 設定が完了したら [Esc] キーを押すか、またはマウス で右クリックすると、サブファンクションを閉じて上の 階層の OSD メニュー表示に戻ります。
F3:SET / PORT ID DISPLAY MODE	 ポート ID の表示方法を設定します。以下の 3 種類から 選択できます。 PORT NUMBER ポート番号のみ PORT NAME ポートネームのみ PORT NUMBER+PORT NAME ポート番号とポートネーム ハイライトバーを該当項目に移動して [Enter] キーを押 すか、またはマウスでダブルクリックすると設定できま
	⁹ 。 デフォルトはポート番号とポートネーム (PORT NUMBER+PORT NAME)です。 設定が完了したら [Esc] キーを押すか、またはマウス で右クリックすると、サブファンクションを閉じて上の 階層の OSD メニュー表示に戻ります。
F3:SET / SCAN DURATION	オートスキャンの切替時間間隔を設定します(単位: 秒)。 1~255の値を入力し、[Enter] キーを押します。 デフォルトは5です。 0を設定すると、オートスキャン機能は使用不可になり ます。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
	オートスキャンモードで、どのサーバにアクセスするか を選択します。以下の4種類から選択できます。
	 ALL アクセスできるすべてのポート POWERED ON
	アクセス可能かつ接続されているサーバの電源 がオンになっているポート
	• QUICK VIEW アクセス可能かつクイックビューポートとして 設定されたポート
F3:SET / SCAN MODE	 QUICK VIEW+POWERED ON アクセス可能でクイックビューポートとして設 定され、かつ接続されているサーバの電源がオ ンになっているポート
	ハイライトバーを該当項目に移動して [Enter] キーを押 すか、またはマウスでダブルクリックすると設定できま す。
	デフォルトは ALL です。
	設定が完了したら [Esc] キーを押すか、またはマウス で右クリックすると、サブファンクションを閉じて上の 階層の OSD メニュー表示に戻ります。
	本装置は一定時間操作がない場合、自動的に LCD パネ ルおよびバックライトを OFF にし、省電力モードに入り ます。画面表示は消え、ブランク状態になります。 その状態に入るまでの時間を設定します。
F3:SET / SCREEN BLANKER	1~30(分)の値を入力してから [Enter] キーを押して 設定します。
	0 を入力すると、この機能は使用不可になります。デフォルトは0です。
	省電力状態でキーボード操作・タッチパッド操作を行う と、本装置は通常の状態に戻ります。
F3:SET / HOTKEY COMMAND	ホットキーコマンドの使用可/不可を切り替えます。 ホットキー操作がサーバで動作中のプログラムと競合す る場合などに、この機能を使用します。
MODE	デフォルトでは ON(使用可)になっています。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
	 ホットキーモードの起動キー(「第6章 ホットキー詳細」を参照)を、以下のいずれかに設定します。 • [Num Lock] キー+[-] (マイナス) キー
	(デフォルト) ● [Ctrl] キー + [F12] キー
F3:SET / HOTKEY	デフォルトでは [Num Lock] キーと [-] (マイナス) キーの組み合わせですが、 [Ctrl] キーと [F12] キーの 組み合わせも使用可能です。 以下の手順で選択します。
	 [↑] [↓] (上下の矢印)キーを使用して、ハイラ イトバーを該当項目に移動します。
	 2) [Enter] キーを押します。 → 組み合わせが選択されます。 3) [Esc] キーを押して、メニューから抜けます。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
	【アドミニストレーター権限専用機能】 アドミニストレーターを含むユーザーネーム/パスワー ドを設定します。
F4:ADM / SET USERNAME AND PASSWORD	 アドミニストレーター1名、ユーザー4名を作成できます。 ユーザーまたはアドミニストレーターフィールドを選択すると、ユーザーネームとパスワードの入力画面が表示されます。英数字および記号('.'、'-'の2種類のみ)、スペースが使用可能で、最長15文字です。大文字・小文字は区別されません。 OSDではポートネームはすべて大文字で表示されます。 入力フィールドの切替には、[Tab]キーまたは上下の矢印キーを使用します。 各ユーザーネームとパスワードを入力し、パスワード確認再入力の後、[Enter]キーを押して決定します。 すでに存在するユーザーネームまたはパスワードを修正・消去する場合は、そのプロファイルを選択し、[Back Space]キーまたは[Delete]キーで修正・消去します。
F4:ADM / SET LOGOUT TIMEOUT	【アドミニストレーター権限専用機能】 ある一定の時間コンソールからの入力がない場合に、そ のユーザーをログアウトさせます。 その時間を設定します(単位:分)。 コンソールを再び使用するには、ログインが必要です。 1~180までの値を入力してから、[Enter]キーを押して 設定します。 0を入力すると、この機能は使用不可になります。デ フォルトは0です。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
F4:ADM / EDIT PORT NAMES	【アドミニストレーター権限専用機能】 サーバポートに名前(ポートネーム)を付けます。 ポートネームは OSD LIST で表示されます。
	 ポートネームは以下の手順で編集します。 1) ハイライトバーを該当項目に移動して[Enter] キーを押します。 2) 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除します。 英数字および記号(,./:()+-の8種類)、スペースが使用可能で、最長15文字です。 大文字・小文字は区別されません。 OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。 3) ポートネームの編集が終了したら、[Enter] キーを押して変更を有効にします。 変更を中止する場合は、[Esc] キーを押すか、 またはマウスで右クリックします。
	設定が完了したら [Esc] キーを押すか、またはマウス で右クリックすると、サブファンクションを閉じて上の 階層の OSD メニュー表示に戻ります。
F4:ADM / RESTORE DEFAULT VALUES	【アドミニストレーター権限専用機能】 ポート識別を補助するポートネームの設定、およびユー ザーネーム/パスワードの設定を除く、すべての OSD 設定を工場出荷時のデフォルト値に戻します。 デフォルト値については、「付録 A 工場出荷時設定一 覧」を参照してください。
	ホットキー機能にも同様の操作があります。 詳細については「6.3 ホットキー設定」の「デフォルト 設定の復元」を参照してください。
F4:ADM / CLEAR THE NAME LIST	【アドミニストレーター権限専用機能】 ポートネーム設定を削除して、工場出荷時のデフォルト 値(全ポートネームなし)に戻します。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
F4:ADM / ACTIVATE BEEPER	ビープ音を設定します。 Y(音あり)またはN(音なし)から選択します。 Yを選択すると、ポート切替時、オートスキャン切替時、OSDメニューで無効な入力が行われたときにビープ 音が鳴ります。
	デフォルトはY(音あり)です。 ホットキー機能にも同様の操作があります。 詳細については「6.3 ホットキー設定」の「ビープ音の 設定」を参照してください。
F4:ADM / SET QUICK VIEW PORT	 【アドミニストレーター権限専用機能】 オートスキャン時、特定のポートだけを巡回表示したい場合に便利なクイックビュー設定を行います。 クイックビューポートとしてポートを選択/解除するには、そのポートをマウスでダブルクリックするか、または[↑] [↓] (上下の矢印)キーを使用してハイライトバーを該当項目に移動した後、[スペース]キーを押します。 ポートがクイックビューポートとして選択された場合、OSD リストの「QV」項目に三角マークが表示されます。 クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 「F2:LIST」でクイックビューが選択された場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 クイックビューに選択されたポートは、オートスキャン時にそのポートだけが巡回表示されます。 デフォルトではどのポートもクイックビューポートとし
	「ノノオルトではとのホートもクイックビューホートとし」 て選択されていません。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
	【アドミニストレーター権限専用機能】 ポートごとに、以下の手順でユーザーのアクセス権を設 定します。
F4:ADM / SET ACCESSIBLE PORTS	 各ユーザーについて対象ポートを選びます。 [スペース] キーを押して、F(フルアクセス)、V(モニタリングのみ)、ブランク(アクセス不可)のいずれかの設定を適用します。 [スペース] キーを押すごとに(F)→(V)→ (ブランク)→(F)→…と切り替わります。 ブランク(アクセス不可)設定にすると、そのユーザーがログインして使用する OSD リストには、そのポートが表示されなくなります。
	アクセス権の設定が必要なすべてのポートに対して、この作業を繰り返します。設定が完了したら [Esc] キーを押します。
	デフォルトでは、すべてのポートがすべてのユーザーに 対して F (フルアクセス)となっています。
F4:ADM / SET CONSOLE MODE	本装置では使用しません(未サポート)。 [Esc] キーを押して、本メニューの選択を解除してく ださい。
	本装置では使用しません(未サポート)。 [Esc] キーを押して、本メニューの選択を解除してく ださい。
F4:ADM / FIRMWARE	誤って本メニューを実行した場合、OSD 下部に 「CONNECT THE DOWNLOAD CABLE DOWNLOAD Y/N?」というメッセージが表示されますので、[N] キーを押して1段階上のメニューに戻ってください。
	[Y] キーを押して先に進めてしまうと、ファームウェ アアップグレードモードになります。 ファームウェアアップグレードモードになると、本装置 の電源をオフにする以外、モードから抜ける方法はあり ません。
<u>∧注意</u>	本装置が接続されたサーバが起動中で、通常に使用して いる間は、絶対にファームウェアアップグレードモード を起動しないでください。 サーバを操作できなくなり、サーバ側へ予期せぬ障害を 与える可能性があります。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
	本装置では使用しません(未サポート)。 [Esc] キーを押して、本メニューの選択を解除してく ださい。
F4:ADM / SET PORT OS	この機能により、ポートごとのキーボードエミュレー ションを設定します。
	デフォルトでは SUN (Sun/Windows/Linux 共用設定) に なっています。
	その他の設定(WIN、MAC)は未サポートです。
	 【アドミニストレーター権限専用機能】 キーボード言語を設定します。通常は、変更する必要はありません。 以下の5種類から選択できます。 AUTO(自動選択)
F4:ADM / KEYBOARD LANGUAGE	 ENGLISH (英語) FRENCH (フランス語)
	GERMAN (ドイツ語)JAPANESE (日本語)
	デフォルトは AUTO になっています。
	変更する場合は、 [↑] [↓] (上下の矢印)キーを使 用してハイライトバーを該当項目に移動し、キーボード 言語を選択後、 [Enter] キーを押します。 設定が完了したら、 [Esc] キーを押します。

OSD ファンクション/ サブファンクション	実行機能
F7:SCAN	各ポートを自動的に切り替えて表示するオートスキャン を実行します。
	オートスキャン時に表示するサーバは、スキャンモード 設定の「F3:SET / SCAN MODE」で選択します。 それぞれのポートを表示する時間間隔は、「F3:SET / SCAN DURATION」で設定します。
	オートスキャンモード中に表示されるポート ID には、 [S] マークが付きます。
	任意のポート表示で一時停止したい場合は、[P] キー を押すか、またはマウスで左クリックします。 画面に「AUTO SCAN:PAUSED.」のメッセージが表示さ れ、オートスキャンモードが一時停止状態になります。 オートスキャンモードを再開するには、キーボードで任 意のキーを押すか、またはマウスで左クリックします。
	サーバが接続されていない、または接続されているサー バの電源がオフの場合は、モニタに何も表示されませ ん。
	オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無 効になります。
	オートスキャンを解除するには、 [スペース] キー/ [Esc] キーを押すか、またはマウスで右クリックして ください。オートスキャンモードが解除され、サーバを 操作できるようになります。
F8:LOUT	本装置からログアウトします。

第6章 ホットキー詳細

本装置は、キーボードからホットキーを利用して簡単に操作や設定を行うこと ができます。これらのホットキーを使用するためには、ホットキーモードを起動 する必要があります。

注: ホットキー機能を使用するには、「HOTKEY COMMAND MODE」が 有効になっている必要があります。

6.1 ホットキーモードの起動

すべてのホットキー操作はホットキーモードの起動から行います。ホットキー モードを有効にするには以下の2種類の方法があります。

• キーボード上の KVM Hotkey キーを押す方法



図 6.1 KVM Hotkey キー

- キーボード上で以下の操作を行う方法([Num Lock]+[-])
 - 1) [Num Lock] キーを押したままにします。
 - [-] (マイナス)キーを押して放します([-]を約 0.5 秒以内に放し ます)。
 - 3) [Num Lock] キーを放します。
 - 注: [-] (マイナス)キーはテンキー側を使用してください。英数 字キー側の[-] (マイナス)キーは機能しません。
 - [Num Lock] キーの代わりに [Ctrl] キーを使用することもでき ます。詳細については、「6.3 ホットキー設定」の「ホットキー モードのキー変更」を参照してください。

- ※ ホットキーモードが有効になると
 - ホットキーモードが起動すると、画面にホットキー入力フィールドが 表示されます。
 - ホットキーモードが有効になっている間、Caps Lock LED と Scroll Lock LED が交互に点滅します。ホットキーモードが終了して通常の状態に なると点滅も終了します。
 - ホットキーモードでは、通常のキーボード/マウス操作は一時的に無効になります。ホットキーモードで使用できるキーボード/マウス操作のみ可能です。
 - いくつかのホットキー操作は自動的に終了しますが、手動で終了しなければならないホットキー操作もあります。手動で [Esc] キーまたは [スペース] キーを押すと、ホットキーモードが解除されます。

6.2 ホットキーによるポート切替

ホットキーによるポート切替機能には、以下の2種類があります。

- ポート番号指定によるダイレクトな切替
- オートスキャンモードによる自動切替

6.2.1 ポート番号指定によるダイレクトな切替

ホットキーモードを有効にし、コマンドラインで直接ポート番号を指定すると、 そのポートに接続されたサーバに切り替えることができます。

- 1) ホットキーモードを有効にします。
- 英数字キー側の数字キーを使用して、切り替えたいサーバのポート番号を入 力します。
 入力したポート番号は画面上にコマンドライン表示されます。
 もし間違った番号を入力した場合は、[Backspace] キーで修正します。
- [Enter] キーを押します。
 [Enter] キーは、英数字キー側とテンキー側両方とも使用できます。

[Enter] キーを押した後、指定されたポートに切り替わり、ホットキーモード は自動的に終了します。

6.2.2 オートスキャンモードによる自動切替

各ポートを自動的に切り替えて表示するオートスキャンを実行します。 オートスキャンモードを実行するには、以下のホットキー操作を行います。

- 1) ホットキーモードを有効にします。
- 2) [A] キーを押します。 [A] キーを押すと自動的にホットキーモードが終 了し、オートスキャンが始まります。

- オートスキャン時に表示するサーバは、スキャンモード設定の「F3 SET SCAN MODE」で選択します。
 それぞれのポートを表示する時間間隔は、「F3:SET / SCAN DURATION」
 で設定します。
- オートスキャンモード中に表示されるポート ID には、 [S] マークが付き ます。
- 任意のポート表示で一時停止したい場合は、 [P] キーを押すか、またはマウスで左クリックします。
 画面に「AUTO SCAN: PAUSED.」のメッセージが表示され、オートスキャンモードが一時停止状態になります。
 オートスキャンモードを再開するには、キーボードで任意のキーを押すか、またはマウスで左クリックします。
- サーバが接続されていない、または接続されているサーバの電源がオフの場合は、モニタに何も表示されません。
- オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。
- オートスキャンを解除するには、[スペース]キー/ [Esc] キーを押すか、 またはマウスで右クリックします。オートスキャンモードが解除され、サー バを操作できるようになります。

6.3 ホットキー設定

本装置のホットキーの設定を表 6.1に示します。

表 6.1 ホットキー設定

項目	設定
- _{項日} ホットキーモードのキー 変更	ホットキーモードに使用するキーは、サーバで実行 中の他のプログラムと競合する場合に備えて、変更 できるようになっています。 デフォルトでは [Num Lock] キーと [-] キーの組み 合わせですが、 [Ctrl] キー+ [F12] キーに変更で きます。 ホットキーモード起動キーは、以下の手順で変更し ます。
	 ホットキーモードを起動します。 [H] キーを押します。 画面に「HOTKEY HAS BEEN CHANGED.」と表示され、ホットキーモー ド起動方法が変更されます。 [Num Lock] + [-] (デフォルト) ↑ ↓
	[Ctrl] + [F12]
	設定完了後はホットキーモードが自動的に解除され ます。
	変更前の設定に戻すには、再度同じ操作を行いま す。
	OSD ファンクション「F4:ADM / RESTORE DEFAULT VALUES」を実行すると、デフォルト設 定に戻ります。

項目	設定
OSD 呼び出しキーの変更	OSD 呼び出しに使用するキーは、サーバで実行中の 他のプログラムと競合する場合に備えて、変更でき るようになっています。
	デフォルト: [Scroll Lock] キー2 度押し 代替設定: [Ctrl] キー2 度押し
	 OSD 呼び出しキーは、以下の手順で変更します。 1) ホットキーモードを起動します。 2) [T] キーを押します。 画面に「HOTKEY HAS BEEN CHANGED.」と表示され、OSD 呼び出し方法が変更されます。
	[Scroll Lock] 2度押し (デフォルト) ↑ ↓
	[Ctrl] 2度押し
	設定完了後はホットキーモードが自動的に解除され ます。
	変更前の設定に戻すには、再度同じ操作を行いま す。
	OSD ファンクション「F4:ADM / RESTORE DEFAULT VALUES」を実行すると、デフォルト設 定に戻ります。
	本装置では使用しません(未サポート)。
ポート OS の変更 (キーボードエミュレー ションの変更)	任意のポートのキーボードエミュレーションを WIN (Windows/Linux 専用) 設定にします。 キーボードエミュレーションは、以下の手順で変更 します。
	1) 変更したいボートを KVM で選択します。
	2) ホットキーモードを起動してます。
	 LFI」 キーを押します。 設定完了後はホットキーモードが自動的に 解除されます。
	誤って本操作を行った場合は同じ操作をもう一度 行って、SUN (Sun/Windows/Linux 共用) 設定に戻し てください。
	OSD ファンクション「F4:ADM / RESTORE DEFAULT VALUES」を実行すると、デフォルト設 定に戻ります。

項目	設定
ビープ音の設定	ポート切替時などに鳴るビープ音を設定します。 デフォルトではビープ音オンです。
	ビープ音設定は、以下の手順で変更します。 1) ホットキーモードを起動します。 2) [B] キーを押します。
	ビープ音をオフにした場合は、画面に「BEEPER OFF.」と表示されます。 ビープ音をオンにした場合は、画面に「BEEPER ON.」と表示されます。
	OSD ファンクション「F4:ADM / RESTORE DEFAULT VALUES」を実行すると、デフォルト設 定に戻ります。
デフォルト設定の復元	【アドミニストレーター権限専用機能】 アドミニストレーターがログインしたときのみ、操 作可能なホットキーです。
	 デフォルト設定の復元は、以下の手順で行います。 1) ホットキーモードを起動します。 2) [R] キーを押してから、 [Enter] キーを 押します。
	画面に「RESET TO DEFAULT SETTINGS」と表示され、本装置の KVM 設定について、ポート識別を補助するポートネームの設定、およびユーザーネーム /パスワードの設定を除く、すべての設定を工場出荷時のデフォルト値に戻します。
	デフォルト値については、「付録 A 工場出荷時設 定一覧」を参照してください。

第7章 Sunキーボード エミュレーション

本装置は、キーボードエミュレーション機能により、Sun システムの特殊キー 入力を行うことができます。

7.1 Sun キーボードエミュレーション

以下の表に Sun キーボードのエミュレーションキーを示します。 表に[Ctrl],[?]の記載がある場合は、以下の操作手順になります。

- 1) [Ctrl]キーを押します。
- 2) [Ctrl]キーを離します。
- 3) 2秒以内に次の[?]キーを押します。
 - 注: [Ctrl] キーから次のキー入力は、約2秒の間で行ってください。 受付時間を過ぎると、エミュレーションキー入力が無効になります。

キー入力	Sun キーボード
[Ctrl], [T]	Stop
[Ctrl], [F2]	Again
[Ctrl], [F3]	Props
[Ctrl], [F4]	Undo
[Ctrl], [F5]	Front
[Ctrl], [F6]	Сору
[Ctrl], [F7]	Open
[Ctrl], [F8]	Paste
[Ctrl], [F9]	Find
[Ctrl], [F10]	Cut

表 7.1 Sun キーボードエミュレーシ	ショ	ン
-----------------------	----	---

キー入力	Sun キーボード
[Ctrl], [1]	F = 1
[Ctrl], [2]	()-=0
[Ctrl], [3]	0+ = 0
[Ctrl], [4]	(
[Ctrl], [5]	Sun 3ボタンマウス・ミドルボタン・ エミュレーション
[Ctrl], [H]	Help
[📑] (App)	Compose
[I] (Win Key)	◆
第8章 トラブルシューティング

8.1 トラブルシューティング

本装置にトラブルが発生した場合の対応を、以下の表に示します。

表 8.1 トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対応方法
	本装置の電源が OFF 状態 になっています。	本装置の電源を ON にしてくだ さい。
	省電力モード中です。	タッチパッドに振れるか、Shift キーなどの任意のキーを押して 省電力モードから復帰してくだ さい。
	ポート選択が正しくあり ません。	ポート選択が正しいかご確認く ださい。
	サーバ側が電源 OFF 状態 になっています。	サーバ側の電源を ON にしてく ださい。
画面が表示されない。	サ ー バ 側 で Redhat Enterprise Linux システム の省電力動作中に本装置 を Off/On された事が考え られます。	本装置のOn時に起動Logoは表示され、その後表示されるべき ID/PW入力画面が表示されるべき ID/PW入力画面が表示され無い 場合は、本装置の電源を一旦 Offし、全てのポートから一旦 信号ケーブルを取り外した後、 本装置の電源をOnして、 ID/PW入力・任意のポートへ切 り換えた後に、信号ケーブルを 再度接続してください。 Linux で DPMS 省電力機能を使 用している場合に本事象が起こ る可能性があります。 Linux を使用する際には、OS の DPMS 省電力機能を無効にした 上で本装置のSCREEN BLANKER 機能を使用すること を推奨します。

症状	考えられる原因	対応方法
画面が表示されない。	上記以外の場合は、接続 ケーブル不良、LCD パネ ル不良などが考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。
画面が暗い。	LCD 調整が正しくありません。	LCD 調整が正しいかご確認ください。
	上記以外の場合は、LCD パネル不良などが考えら れます。	当社技術員にご連絡ください。
画面にノイズが走 る。	LCD 調整が正しくありません。	LCD 調整が正しいかご確認ください。
	上記以外の場合は、接続 ケーブル不良、LCD パネ ル不良などが考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。
画面がずれて表示 される。	LCD 調整が正しくありません。	LCD 調整が正しいかご確認ください。
	上記以外の場合は、LCD パネル不良などが考えら れます。	当社技術員にご連絡ください。
画面全体が流れて いる	Redhat Enterprise Linux シ ステムでは OS が省電力 モードに入った場合に発 生することがあります。	サーバ側設定を確認し、モニタ の省電力モード移行時間を確認 の上で、それより短い時間を、 OSD ファンクションの 「SCREEN BLANKER」で指定 してください。
	上記以外の場合は、接続 ケーブル不良、LCD パネ ル不良などが考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。

症状	考えられる原因	対応方法
キーボード入力が 正しく反映されな い。 例:入力したキー と異え示され る、入力のあ る、入力であ る、勝手に キー入力が行 われる	選択言語が正しくありま せん。	言語選択が正しいかご確認くだ さい。
	Sun キーボードエミュ レーション機能により、 キーコードの変換が行わ れています。	7 章の「SUN キーボードエミュ レーション」をご確認くださ い。
	サーバ側で EFI 稼働中に 本装置の電源 Off/On が行 われました。	EFI 稼働しているサーバへ接続 されているケーブルの、本装置 側のコネクタを一旦抜いて挿し 直し、EFI ヘキーボードを再認 識させてください。
	指定版数以上のサーバ側 のファームウェア (HCP)やパッチが適用 されていない。 詳細は、「1.6 注意事 項」をご参照ください。	当社技術員にご連絡ください。
	上記以外の場合は、接続 ケーブル不良、キーボー ド不良などが考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。
[Shift] キーを押 しながらの小文字 入力が正しく反映 されない (Solaris)。	Solaris システムでは、 [Caps Lock] 中に [Shift] キーを押しなが ら文字を入力すると大文 字になります。	[Caps Lock]を解除して小文字 を入力してください。
タッチパッド入力 が正しく反映され ない(カーソル移 動/クリックボタ ン共通)。 例:カーソル/ク リックが正し く操 勝手に カーソル操作 ドチャックが 行われる。	接続ケーブル不良、タッ チパッド/クリックボタ ン不良などが考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。

症状	考えられる原因	対応方法
キーボード・タッ チパッドが双方と も操作できない。	MS-Windows Server シス テムでは、OS インス トール直後や USB コネク タをサーバ側の別の USB ポートへ繋ぎ換えたとき に、OS 起動から約 3 分間 使用できない場合があり ます。	OS 起動から 3 分間経過する と、使用できるようになりま す。
	上記以外の場合は、接続 ケーブル不良、キーボー ド不良などが考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。
ポート選択スイッ チによる切替がで きない。	ポート選択スイッチなど の不良が考えられます。	当社技術員にご連絡ください。
サーバの電源が 入っていないのに ポート LED が点 灯している。	本装置はサーバの電源オ ン・オフ状態を判断する ために、接続ケーブルの USB や PS/2 インタ フェースへの給電状態を 監視しています。 サーバ側の仕様で、サー バは起インタフェースに電 上記インタフェースに電 上記インタフェースに電 にがかかっている場合は このような状態になりま す。 接続ケーブルが未接続の ポートの LED が常時点灯 の場合は、LED 不良など	特に対応の必要はありません。 当社技術員にご連絡ください。
オートスキャン モードでないのに ポート LED が点 滅している。	が考えられます。 LED 不良などが考えられ ます。	当社技術員にご連絡ください。
勝手にポートが切 り替わる。	オートスキャンモードに なっている。	ポート切替方法の設定が正しい かご確認ください。
	上記以外の場合は、本装 置の不良が考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。
OSD で設定した 内容が反映されな い。	設定の操作が正しく行わ れていません。	設定の操作を再度ご確認くださ い。
	上記以外の場合は、本装 置の不良が考えられま す。	当社技術員にご連絡ください。

症状	考えられる原因	対応方法
引き出し操作に異 常がある。	レールに異物が挟まって います。	レール内の異物を取り除いてく ださい。
	上記以外の場合は、スラ イドレール機構部の異常 などが考えられます。	当社技術員にご連絡ください。
引き起こし動作に 異常がある。	開閉部に異物が挟まって います。	開閉部の異物を取り除いてくだ さい。
	上記以外の場合は、パネ ル両側ヒンジ機構部の異 常などが考えられます。	当社技術員にご連絡ください。
電源スイッチを入 れても本装置が ONにならない。	AC ケーブルが抜けてい ます。	AC ケーブルが正しく接続され ているかご確認ください。
	上記以外の場合は、電源 部の異常などが考えられ ます。	当社技術員にご連絡ください。
ログイン情報を忘 れてしまった。	修理扱いとなります。	当社技術員にご連絡ください。
グラフィックス カードの解像度設 定時に、コンソー ルメッセージ ^{**} が 表示される。	本装置のサポート解像度 の一部解像度では、グラ フィックスカードドライ バが解像度設定の確認 メッセージを表示する場 合があります。	本装置のサポート解像度を確認 し、正しければ、「Yes」で進 んでください。

※ メッセージ例

XVR-100 アクセラレータで 1280×1024 ドット(67Hz)を使用の場合 SUNWpfb_config: Cannot verify that 1280x1024x67 is a supported video resolution for this monitor SUNWpfb_config: Use 1280x1024x67 anyway (yes/no)?

付録A 工場出荷時設定一覧

本装置は工場出荷時、以下のような設定になっています。

A.1 工場出荷時設定(KVM OSD 設定)

表 A.1 工場出荷時設定(KVM OSD 設定)

設定	初期値
OSD リスト表示	ALL (すべて)
OSD 呼び出しホットキー	[Scroll Lock] 2度押し
ポート ID 表示位置	左上部
ポート ID 表示時間	3秒
ポート ID 表示モード	ポート番号およびポートネーム
オートスキャン間隔	5秒
オートスキャン設定	ALL (すべて)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ホットキーコマンドモード	オン(ホットキー使用可能)
ホットキー起動キー	[Num Lock] + [-] マイナス
ユーザー設定	ユーザー名:未登録 パスワード:未登録
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ポートネーム	未登録
ビープ音	Y (有効)
クイックビューポート	未設定
ポートアクセス権限	F(全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)
SET CONSOLE MODE	0(正面/セカンドコンソール両方使用可)
ポート OS	すべて Sun
キーボード言語	AUTO
アドミニストレーター パスワード	未登録 ([Enter] キーでログイン)

A.2 工場出荷時設定(LCD OSD 設定)

表 A.2 工場出荷時設定(LCD OSD 設定)

設定	初期値
BRIGHTNESS	50
CONTRAST	50
PHASE	0
CLOCK	50
H-POSITION	50
V-POSITION	50
COLOR TEMPERATURE	9500° K (R : 45 G : 45 B : 50)
LANGUAGE	ENGLISH
OSD DURATION	5



このマニュアルは再生紙を使用しています。